

令和元年度 第2回 習志野市いじめ問題対策連絡協議会 議事録

1 日 時

令和元年12月26日(木) 15時～17時

2 開催場所

習志野市役所3階 大会議室

3 出席者氏名

出席委員：小熊隆委員（会長）、宮本泰介委員（副会長）、鮎川由美委員、
（20名）五木田文孝委員、高橋君枝委員、海寶嘉胤委員、鈴木和弘委員、
央重則委員、中台雅之委員、松濱幸子委員、五十嵐久仁委員、
植草洋子委員、太田忠委員、吉田勝幸委員、岩田寛委員、
小西薫委員、藤木義久委員、菅原優委員、小澤由香委員、
櫻井健之委員（敬称略）

欠席委員：廣瀬博委員、加川美奈子委員、佐々木秀一委員、
（5名）國崎正晴委員（代理出席石毛雄司生活安全課長）、
杉戸一寿委員（代理主出席石原徳子副センター長）（敬称略）

出席職員：天田学校教育部長、蓮指導課長、杉山主任指導主事、小野指導主事、
安村指導主事

傍聴者：0名

4 協議会内容

（1）開会

（2）会長挨拶

（3）副会長挨拶

（4）会議録の作成と署名委員について

（5）協議

① 習志野市いじめアンケート2学期の結果と考察について

② いじめに隠れている心理と早期解決に向けての対応について

講師 臨床心理士 堺 淑子 様

（6）その他 事務局連絡等

（7）閉会

5 議事録（要点筆記）

会長

協議事項1についての説明を事務局に説明を求める。

事務局

報告（1）2学期のいじめのアンケートの集計結果と考察をプレゼンテーションソフトのスライドにより説明。

報告（2）第1回協議会で報告した教育委員会と学校が連携して対応しているいじめの件を説明。

会長

協議事項2について進行を求める。

講師

テーマ「いじめに隠れている心理と早期解決に向けての対応」
パワーポイントやロールプレイングを使って説明。

会長

協議事項について、委員との質疑、意見等を求める。

委員

最近、中一ギャップということが話題になっている。そういう背景がわかればご教授願う。

委員

習志野市、または県内で悲惨な事件やいじめが起因した自殺などを起こしたくないという気持ちで、学校や様々な関係機関と連携を図って対応していきたい。

委員

いじめる側の子ども支援や先生達がされている取り組みを、保健所という立場で、伝えていきたい。こういった問題に対応していける地域づくりの中で一緒に考えていきたい。

委員

町会でも、常日頃より行っている、子供達の行動を見ながら子供達が安全に学校へ行って、無事帰ってくるといった、そんな見守りを続けていきたい。

委員

先生がゆとりを持って、生徒と接することがとても大事だと思う。先程のロールプレイングでも、先生側がゆとりをもって生徒に接していくと、生徒の方もきちんとした回答が出る。良い教師のもとには、良い児童が育っていくとも感じている。

委員

来年1月の市内の16支部の支部長が集まる支部長会議に、概略をご説明して、できるだけ、理解を深めるようにしていきたい。

ロールプレイングの台本にある、最初の「どうしたの」の前に、それに気付くきっかけ

けをどうやってつくるかが、とても大事なことであると思われる。

最近、学校だけではなく、家庭が起因で自殺に追い込まれるという事例が増えている。家庭上の問題についても、どうやって防いだらよいか、あわせて対応を考えていかなければいけない。

委員

保護司という立場で、習志野市の保護観察の減少を目指しており、家庭、学校、地域の方たちの見守りが大事だと思う。

委員

交通安全協会でも、6時から7時の1時間ほど全市で交通監視を行っており、下校中の中学生も見守っている。次の2点について伺いたい。

いじめの始めは大人の目が届かないところで始まるといっていたが、先生方が忙しい中でどうやって子どもと目を合わせるような場を作っているのか。

講演にあったカウンセリングの心得などの内容を若手や講師の先生方にもできるように、どのように指導しているか。

委員

青少年健全育成活動を行っている時、指導に対して納得のいかない子供達に対して、どのように対応したらよいか、ご教授願いたい。

委員

中学校では小学校と違い、教科担任となるので、担任の先生とのコミュニケーションが少なくなり、不安がつのっているという話がある。

命は大切という事を私たちも感じながら「愛の一声運動」をしている。年に1回、小学生を集め、命の大切さを伝達している。

委員

いじめアンケートの結果の数字だが、習志野市の実態が、千葉県平均や全国平均などに比べてどのような状態なのか。出生率の低下で子どもの数が毎年少なくなっているため、件数だけではいじめが本当に減っているか自然減なのか判断できない。判断できる資料をお願いしたい。

学校以外でも子供の変化に気づき、「どうしたの」が出るように神経を研ぎ澄ませていろんな行事や活動に参加していかなければいけないと気持ちを新たにしたい。

委員

このような、いじめの芽を摘んでいけるように、親子の絆を赤ちゃんのうちからしっかり育てて欲しいとお母さん、お父さんに伝えている。

委員

国の人権擁護機関という立ち位置で、電話、面談、メールの相談、こどもの人権SOSミニレターなどいろいろなアンテナを広く形立てて相談に対応している。

予防策というのが一番だと私どもは思っており、小中学校を中心として、人権教室

を開催し、子どもたちに直接、子どもの人権の大切さを伝えている。

委員

子どもの数は減っているが、児童虐待のケースはウナギ登りに増えている。言う事を聞かなかったから暴力をふるうというのは結果的にいじめに結びつくということになる。叱り方を知らない方がたくさんいるので、普段より、お母さんやお父さんたちにしつけの方法の引き出しを増やすように、かかわり方の啓発や研修などを行っている。

委員

昨年度までに20回を超えている中学校の人権標語コンテストにおいて、習志野市長賞に選ばれた作品の文面をご紹介させていただく。「差しのべよう、勇気、優しさ、思いやり」いじめがあった場合に、手を差し伸べていこうという文言が本当にひしひし伝わってくるので、表彰させていただいた。

委員

学校現場という視点でお話する。いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こる、いじめは絶対に許さないということ、いじめられている生徒を絶対を守るということを先生方と共通理解を図りながら、取り組んでいる。年2回いじめアンケートを行い、生徒との面談週間として、生徒とのコミュニケーションをとる機会を設け、いじめの早期発見に努めている。

また、授業や部活動、学校行事などで、達成感や自己有用感を子ども達に感じてもらうことがいじめの予防になると考え、教育活動を行っている。もし、いじめが起こった場合にも、組織的に対応している。

委員

どの学校でも、いじめ不登校の問題は、最大の教育課題であるにとらえて対応している。未然防止として、教師がアンテナを高くして、児童生徒と接するということができるような体制作りに取り組んでいる。生徒につく時間の確保といった点では、会議の時間を短縮するとか、書類を提出するのではなく会話で済ませるとか、できることを行っている。大きなことができるのであれば、すでに行っているもので、細かいところの積み重ねが大切であると考えている。

また、道徳の授業をしっかりと行っていく事や特別な支援を要する生徒だけではなく、どの生徒でも学校生活を送りやすくなるような環境づくりという観点から教育におけるユニバーサルデザイン化を行っていく事が遠くはあるが効果があると思う。

さらに、相談しやすい、相談してもらえやすいような雰囲気づくりに力を注いでいる。

講師も含めた若手の教員の指導力向上については、オンザジョブトレーニング(OJT)を行い、切実感を持って話をしたり、意見交換をしたりといった事に力を注いでいる。

会長

生徒につく時間の確保については、教育委員会としても働き方改革の中に位置づけて、教育課程そのものをしっかりと見直すなどバックアップしている。

若手の教育相談の力をつけていくということは、指導力の向上とあわせて課題になっている。OJTということで、仕事をしていく中で、しっかりと身につけていくという事は進めている。

中一ギャップの問題等は、この時間内では、説明が難しいので次回に少し触れていきたい。

アンケートの数字について、他との比較や実態を表すとどうなのかというところについては、事務局に説明を求める。

事務局

生徒児童数で千葉県の中に占める習志野市の割合といじめの千葉県全体の中での習志野市の割合で比較させていただく。千葉県の小学校の児童に占める習志野市の小学校の児童の割合は、2.5%である。平成30年度の千葉県のいじめの件数は24876件、習志野市は平成30年度末が609件であるので、2.458%と県の人口比率とほぼ同じである。同じく中学生では、県全体の中学生の数に占める習志野市の生徒の割合は、2.5%である。いじめの件数は、6376件、習志野市では平成30年度末が30件で、0.47%であるから、少ないという事がいえる。今後、資料の改善を行う。

事務局

いじめの解消状況という資料を提示したが、この%は、いじめの件数の中に占める割合である。よって、小学校が977件のうち、約70%がだいたい解消、または解消ということになり、中学生は全体61件の認知件数に対して、その中に占める割合である事を付け加える。

会長

指摘のあったところは、次回以降、議題の中に入れるなど、資料の改善を事務局に求める。

副会長

いろいろ鋭いご意見を言っていただいていたよかったですと思っている。今年のいじめで一番衝撃だったのは、先生同士のいじめがあったこと。大人のいじめ、パワハラもとても深刻な問題。大人がやっていたら、当然その子どもにも伝播していく。やはり、私たち大人の日常の言動はとても大事である。

また、情報化社会では、様々なものが多様化しているので、生半可な情報がSNS等に拡散することによって、混乱が生じてしまう。一つ一つの情報を丁寧に発信することが大切である。まずは、しっかり理解すること、そしてやさしさが大切である。「やさしさでつながる街」の実現に向けて、来年から後期基本計画が始まる。来年も

しっかりと優しさを育む中で相互理解を促進させて、私たちよりだいぶ少ない子どもが、大人になった時、素晴らしい活躍をしてくれることによって、社会が持続可能になっていく事を描かれ、活動が充実していくことを心から祈念してあいさつとする。

会長

私自身非常に重く受け止めているのが、いじめで相談できない子どもが、小学校の上学年を中心に1学期より増えてしまっていることである。相談体制をしっかりと整え、教育相談の充実に取り組んでいきたい。

また、教師がゆとりをもって、子ども達の話もしっかりと聞き出せるような体制をつくっていかねばいけないと感じている。

いじめのなかなか細かいところまではわからないけれども見守っていかねばいけないんだという話は、大切な言葉だと思っている。気づいた事、何か変だなと思った事を学校関係の方に話をしてもらえるといじめの未然防止に繋がっていくと思われる。今後とも習志野市全体で子供たちを見守っていただきたい。なお、本協議会の内容を各団体で周知していただくとともに、活動報告などに掲載していただくようお願いする。

大変有意義な会ができ、皆さんから貴重な意見をいただいた事に感謝する。

事務局にあっては、今回いただいた意見や提言を真摯に受け止め、これからも習志野市の教育行政発展に努めるよう求める。

以上、閉会とする。

事務連絡

事務局

第3回の協議会は3月18日（水）15時30分より、市庁舎で予定している。

6 所管課名

教育委員会学校教育部 指導課

電話番号 047-451-1132

FAX 番号 047-452-0771